

～民生～

車載バッテリー活用の蓄電システム

廃バッテリーを活用した蓄電池

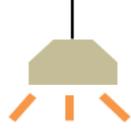


太陽光発電

発電



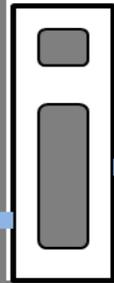
屋内



系統電力



分電盤



蓄電

平常時



充電
スタンド

蓄電池

非常用コンセント



非常時

充電



～民生～ : 各種補助制度

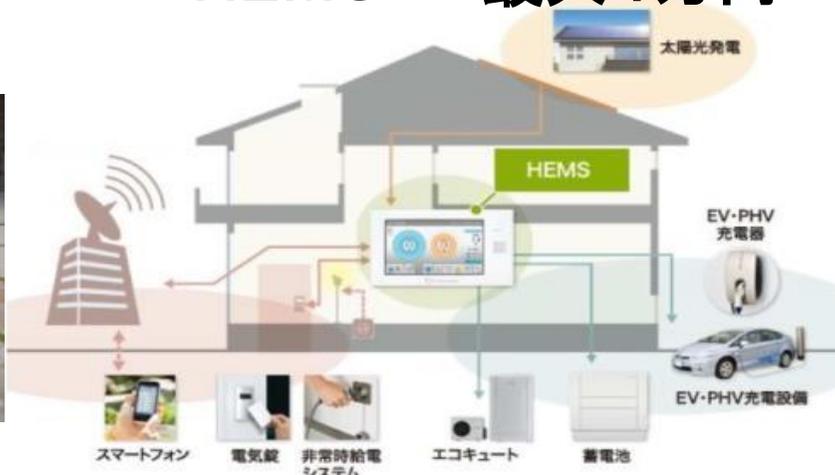
■エコファミリー支援制度の導入



次世代自動車 (PHV、EV)
最大25万円 (充電・外部給電設備、各5万円含)



家庭用エネルギー管理システム HEMS 最大4万円



燃料電池 エネファーム
最大6万円

家庭用蓄電池
最大16万円



住宅用
太陽光発電
最大8万円

スマートハウス減税〈全国初〉

新築・既築のスマートハウスの固定資産税を1/2減免

創エネ＝太陽光発電、

蓄エネ＝蓄電池、

省エネ＝HEMS

をすべて備えた家



再生可能エネルギー発電設備減税〈全国初〉

国の認定を受けた10kw～2000kw未満の

発電設備の固定資産税1/3減免



電気軽自動車減税〈県内初〉

電気自動車・小型電気自動車の
軽自動車税を10/10減免



～民生～

:とよたエコポイント

エコファミリー宣言

地球温暖化防止のため、
1人が年間で365キログラムの
二酸化炭素の削減をめざします



エコポイントの発行される行動

リサイクルステーションの利用 5ポイント／1日
環境学習・調査に参加 5ポイント～
環境学習施設エコット来場 5ポイント

交換メニュー

燃やすごみ指定袋 145ポイント
モーいちど(ティッシュ) 65ポイント
お買物券100円 100ポイント



～森林～

・森林施業の団地化

所有者単位ではなく、間伐などの作業が効率的にやりやすい施業単位で山の手入れを進める。

・地域主体の森づくり

健全な森づくりの最終的なキーパーソンは所有者。森づくりの大切さを知ってもらう啓発活動を実施。

・森林学校

所有者だけでなく、山林がある恩恵（水源涵養、災害防止、生活のうるおい等）を都市生活者にも知ってほしい。10年間の講座開催等実績により、2016年度林野庁長官賞。

・木材の地産地消運動

多様な構成員（建築家、森林組合、製材所、材木店等）によるプラットフォーム『ウッディーラ』が2017年に発足。地産地消サイクルを確立し、持続可能な元気森林を確保。

・中核的製材工場の誘致

造成した市有地（3万㎡）に製材工場を誘致。育林から加工、流通、消費までの一体的な地産地消サイクルを推進。（2018年夏から稼働）



～産業～

- ・ **輸送用機器を中心とした産業都市**

製造品出荷額 約13兆円（2002年からは連続日本一）

⇒大規模な工場や、大型の輸送車両が多い。

⇒市の温室効果ガス排出量の過半は「産業部門」から。

- ・ **企業自身による温室効果ガス削減**

例：トヨタ環境チャレンジ2050

車のライフサイクルCO2ゼロ、工場CO2ゼロ など

- ・ **中小企業の省エネ相談体制の充実**

「西三河首長誓約推進協議会」の区域（豊田市、岡崎市、安城市、知立市、みよし市）の中小企業に対し、（一社）環境創造研究センターが省エネ相談を行う体制を構築。

* 2017.8～ * 国の「省エネ地域相談プラットフォーム事業」を活用

- ・ **バーチャルパワープラント（仮想発電所）への取組**

電力会社や製造業の4社と共に、市はバーチャルパワープラント構築への取組を開始。再エネ（風力、太陽光、バイオマス等）の発電量に応じ、公共施設の電力消費や工場のコージェネ発電等をきめ細かく調整し、再エネ活用の最大化を図る。

～都心～

：とよたエコフルタウン



スマートハウス



都市の食料生産
「植物工場」



地元の木材を使った
スマートハウス



パーソナリーモビリティ
体験乗車



燃料電池自動車



水素ステーション



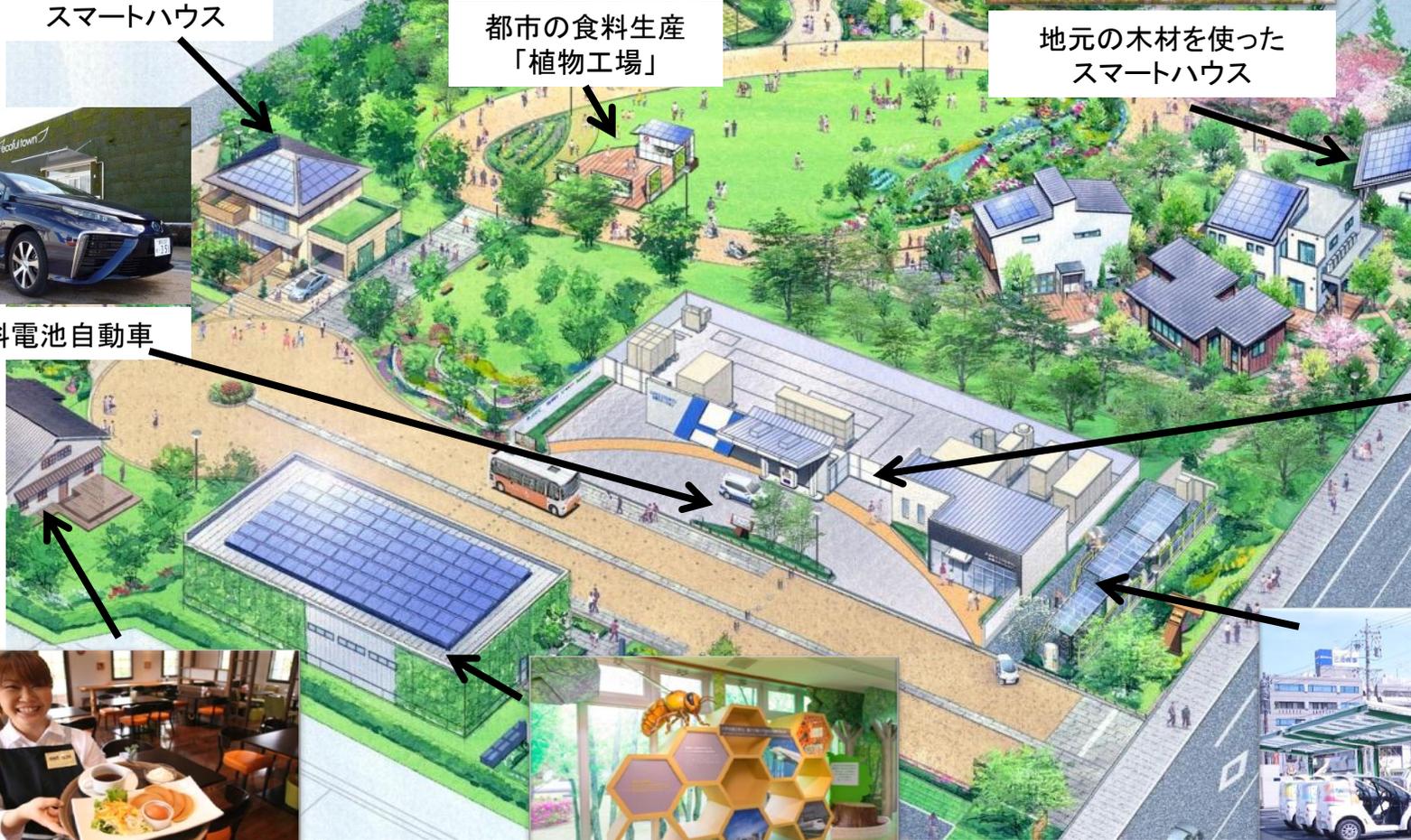
地産地消レストラン



パビリオン内「発見の森」

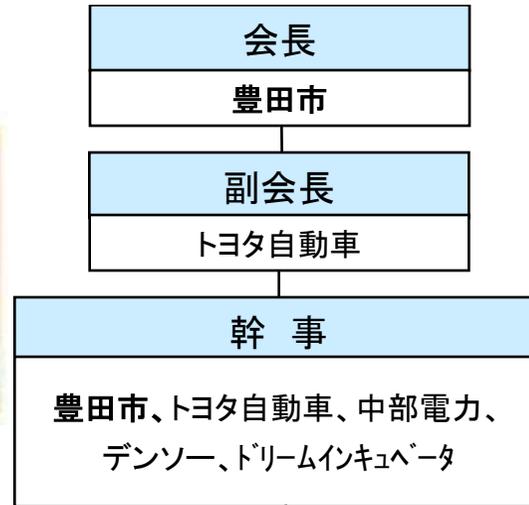


スマートモビリティパーク



次世代エネルギー・社会システム実証地域

市民・大学・企業・市が連携した取組

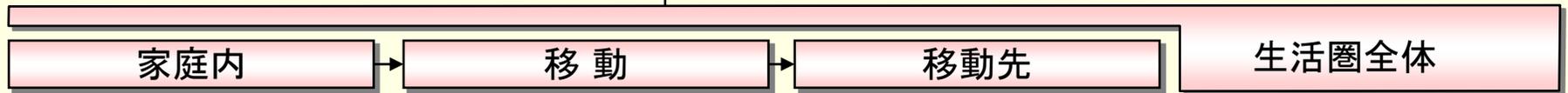


設立日 2010年 8月 5日

活動内容

- 1 低炭素社会システム実証事業の企画・推進・連絡調整
- 2 各種関係機関・団体との連絡調整
- 3 協議会外部に向けた情報発信・広報活動
- 4 その他、本協議会の目的を達成するために必要な活動

会員 (2013年9月末現在) 50



推進主体 (計50団体)



「豊田市低炭素社会システム実証推進協議会」を設立し、推進体制を構築

環境先進都市国際会議の開催



世界のミライを、とよたから。
とよた世界環境ウィーク 2015
ミライのフツールを目指そう 1月10日(土) - 18日(日)



■北村環境副大臣



■こども国連環境会議代表からのメッセージ発信



■国連経済社会局ニキル セス部長と豊田市長 太田稔彦による共同議長



最近の動き 豊田市つながる社会実証推進協議会



設立日 2016年10月12日

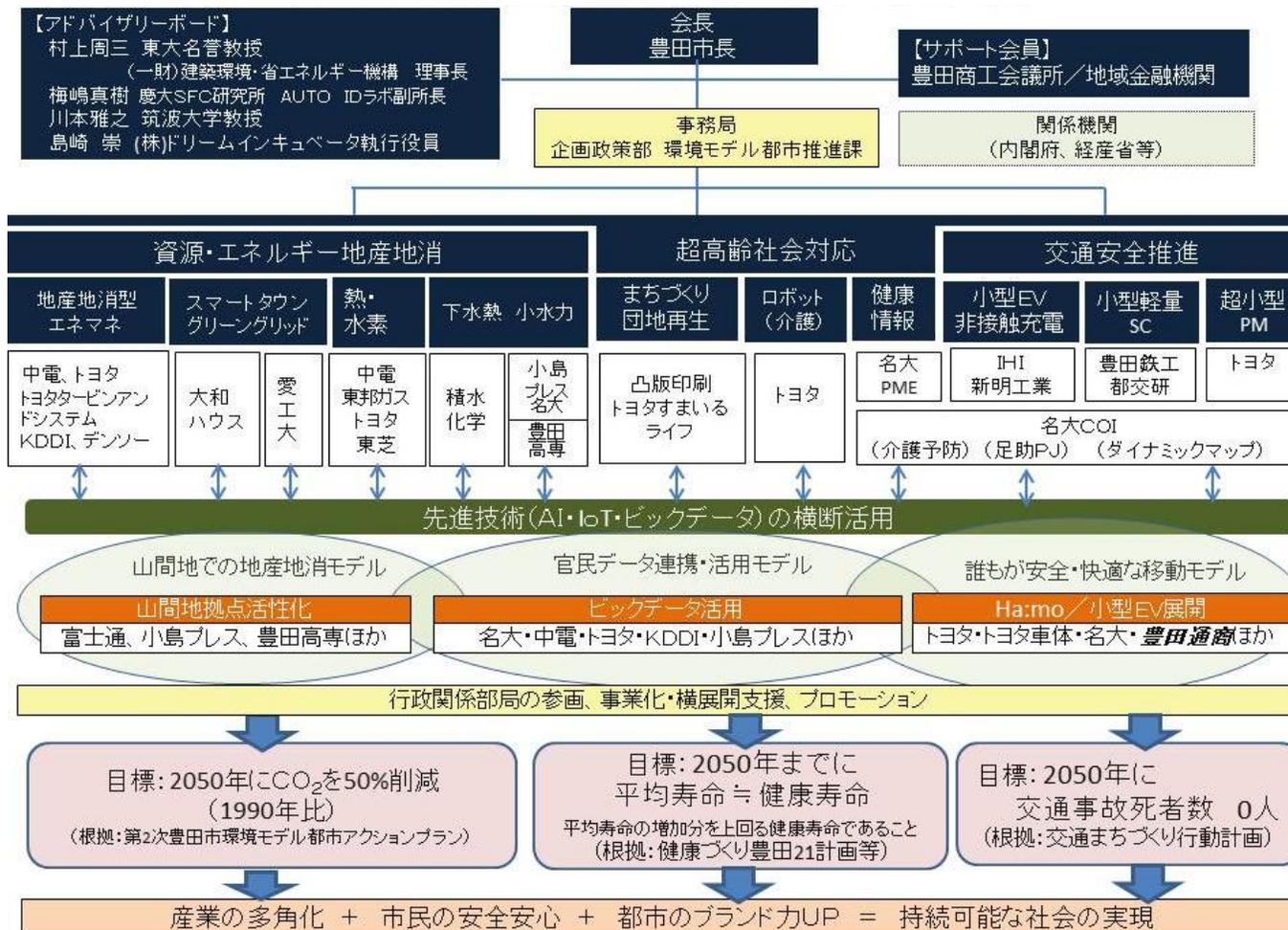
協議会の特徴

- ①人工知能・IoT等の先進技術を活用し、市の課題解決を図る
- ②民産金学官の連携強化
- ③国内外への横展開
- ④地方創生推進交付金の対象事業
- ⑤総合特区の推進母体

活動テーマ

- ①資源・エネルギーの地産地消
- ②超高齢社会への対応
- ③交通安全の推進

会員(2017年6月末現在) 45団体



「ミライのフツー」を目指す、環境先進都市とよた

- 無理なく無駄なく快適な 低炭素な暮らし
- 活発な環境産業の展開
～人と環境と技術の融合～

